

海外安全対策情報
(2018年1月～3月)

在セブ領事事務所

1 社会・治安情勢

(1) セブ州はマニラ首都圏に次ぐフィリピン第二の大都市圏であり、テロのターゲットとして大型ショッピングモールや外交団施設、外国資本の施設が標的とされる可能性も排除できない。

昨年4月中旬、ボホール州イナバングにおいてアブ・サヤフ・グループ(ASG)のメンバーと治安部隊とが衝突する事件が発生する等、ビサヤ地方(セブ州を含む)における治安情勢は不透明な状況にあるため、十分な注意と警戒が必要である。

(2) セブ州は世界的に著名な観光地を擁しており、2017年の年間邦人渡航者は39万人に上った。これまでには銃器を使った犯罪やトランプのいかさま賭博や性犯罪の被害に遭う事例も報告されていることから、同島の滞在にあたっては慎重に行動することが大切である。

また、後述のとおり、ビサヤ地方全般で、在留邦人、旅行者の別を問わず、引き続き邦人が巻き込まれる犯罪被害が発生していることから、単独行動(特に夜間)をなるべく避ける、所持品から目を離さない(なるべく鞆は身体の前で持つ・多額の現金は持ち歩かない)等、防犯対策を怠らないことが重要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) フィリピン国家警察から入手したセブ州の犯罪統計によれば、2018年1月～3月における犯罪発生件数は以下のとおり。

(ア) 殺人(含む未遂) 109件(前期比: 25%増)

(うちセブ都市圏(セブ, マンダウエ, ラプラプの3市)で45件(前期比: 45%増))

(イ) 傷害 383件(前期比: 31.5%減)

(うちセブ都市圏の3市で172件(前期比: 40%減))

(ウ) 強姦 33件(前期比: 66.5%減)

(うちセブ都市圏の3市で26件(前期比: 4%増))

(エ) 強盗 243件(前期比: 15%減)

(うちセブ都市圏の3市で107件(前期比: 22%減))

(オ) 窃盗 639件(前期比: 1%減)

(うちセブ都市圏の3市で424件(前期比:1%増))
(2018年1月～3月における犯罪件数総数は8,661件,前期比より0.5%減,前年同期比で13%減となっている)

(2) 邦人被害事案

(ア) 1月中旬,ラプラプ市内のショッピングモールにおいて,在留邦人(男性)が買い物を装ったフィリピン人女性に鞆の中の財布を窃取された。なお,1月～3月,セブ市内の路上やショッピングモール内においても,複数の窃盗被害が発生している。

(イ) 1月下旬,マンドラウエ市内の路上で,邦人(男性)がスマートフォンを使用していたところ,突然近づいてきたバイクに乗った2人組に奪われた。

(ウ) 3月上旬,深夜に邦人旅行者(女性)がセブ市内のスパよりタクシーで宿泊先ホテルに移動中,車内で運転手に鋭利な棒で脅かされ,首からかけていた鞆を奪われた。

(エ) 3月上旬,セブ州オスロブ町において,複数の邦人旅行者(男性)が滞在先の宿泊施設に戻ったところ,鍵付きロッカーの中に入れていた貴重品を窃取されていた。

(オ) 1～3月,ネグロス島において空き巣被害が2件発生している。

(カ) 1～3月,邦人が運転中に起こした車両交通事故が3件発生している。

(3) 邦人以外の被害

セブ市内で車を運転中の外国籍の男性が,バイクに乗った2人組に銃で撃たれ死亡する事案が発生している。

3 テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

当地に所在する日系企業・個人に対する恐喝,脅迫等の問題は報告されていない。

(了)